



昭和43年(1968年)

8月号 (No. 278)

 社団法人 日本山岳会
(J. A. C.)

目次

随想・紀行

Schlagintweit	日高信六郎	1
富士山南面の開発	冠松次郎	1
高頭家去就	藤島玄	2
千軒岳(2)	原由徳	2
John Tyndall	八十島信之助	2
常さん小伝	初見一雄	3
海外通信		5~7

Hindu Kush

山野井武夫, 時田昌幸, 高木泰夫,
立花種則, 湯浅道男, 岡本竜行,
雁部貞夫, 学習院大学
東GL (五月女次男), カナダ (目
邦雄), リマ (依田雄次), ボリビア
(阿部重雄), アマゾン (植村直巳),
カリマンタン (神原達), アメリカ
(阿岸充徳), タクロバン (松田雄一)

海外登山隊—1968 (V)	4
カラコルム情報・Nanga Parbat	4
計報 松宮三郎氏 (山崎)	6
追悼文御礼	7
御礼	7
彫塑の寄贈 (今川良雄氏)	7

図書紹介

「先蹤者」複製版	望月達夫	8
受入図書		8
諸報告		9
会務報告		10
ルーム基金入金報告		14
新入会員		15

シュラーギント

ワイトという名前

日高信六郎

ことしの五月はじめドイツ政府の招待で戦後はじめてベルリン、ボン、ミュンヘンなどをめぐった。

われわれは国際連合協世界連盟総会でジュネーブに集まった機会に招かれたもので、アルゼンチンの老婦人、豪州の中年夫妻、スエーデンの職業組合書記など五人、まい日たのしい旅をした。どこでも初夏の霞がたなびいて、ジュネーブからのモンブランも、飛行機からのダン・デュー・ミディもよく見え、ミュンヘンのお寺の塔上から望遠鏡をのぞいてもバイエルンの山々がおぼろにうつる程度で、山とは縁がなかった。

ところがボンでドイツ国際連合協会から夕食によばれたとき、食卓でとなり合せてドイツ新聞情報社のお役人と名乗り合ったところ、ラインハルト・シュラーギントワイトだとのこと。その姓なら日本の山仲間では知らぬものはないと云うと、彼の祖父は登山家兄弟

のいとこであり、彼自身は近ごろ現職につくまでは外交官として、アフガニスタンやタイの大使館に在勤したとして、そこで知り合った私の知人の名を挙げるなど話がはずんだ。彼も山好きでアフガニスタンではあちこちの山に登った話をすると、ライン河畔の食堂に時ならぬ山気をたたよせ、思いがけなく愉快な一夜を過ごした。

さらにその二日あとの夕方、ミュンヘンで同地の海外協会の幹部とお茶をのんだとき、杖をついて現われた老紳士は戦後最初の日独通商交渉に代表として来たヘス元大使であった。話の途中でボンでの奇遇のことを話すと、シュラーギントワイト家はミュンヘンの出であって、じぶんはその近い親戚であるからラインハルトとは縁つづきののだが、両方とも外国つとめが長く、行き違つて未だ会っていない。君から彼の噂を聞くのは思いがけない。それから近くボンに出かけて会ってみよう。云々などアジアの高山につながる奇縁で、私も思わぬところで思わぬ人に出くわす機会を得ることになった。

× × ×

富士山南面の開発と保存

(須山の渡辺徳喜君よりのたより)

冠松次郎

今、富士山の南面である十里木、須山を中心として一大開発が行なわれようとしている。

富士山の裾野から千四、五百米の間に、御殿場口の太郎坊から大宮口の一合目まで、トラックの行き交うような立派な周回路が出来てくる。

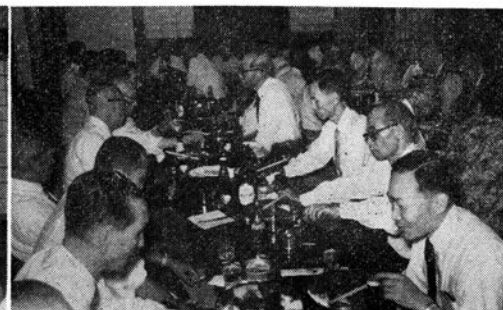
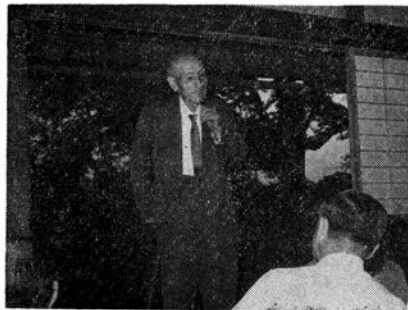
これは元治元年の頃、須山の勝田三平が切り開いた所謂三平横道を富士山原生林の伐採のために営林署が改修した路である。

この周回路に沿った上下には、平塚、腰切塚、西黒塚、東白塚、浅黄塚などの側火山が集まっている。そしてその寄生火山の間には広い高原がある。

この路線は大宮口、元村山口、旧須山口などの道が集まっている。富士山南面でも最も趣の深いところである。しかも十里木一帯の高原は富士山と愛鷹山の裾を接する日本随一の大きな鞍部である。

今、開発しようとしているのは、この広大な高原で幾千町歩の間は、全く人の設備をしていない須山地区内の広場である。ここに日本ランドと称せられる大ゴルフ場を造るといふ。ここに至る交通は、F急行会社で御殿場から、大宮口から従来の裾野を走るバスと連絡する予定で、相当大きな道を造らなければならない。大体計画を完了してやがて実施にうつす段取となっている。このゴルフ場は冬期はすばらしいスキーゲレンデとなることと思う。

ここで最も注目すべきは、御殿場口の太郎坊から大宮口の一合目に至る千四、五百米付近を拓かれたら周回路を境界として、それより上はバス道を造らず歩道だけを改修して御殿庭、宝永山一帯をふくめて、登山者のために、富士山愛好家のために、お中道から頂に達するように計画している。下の方は開発へ、上の方は保存して原始のままに、富士山を二区域に分けて考えたこの計画を、私は非常にいいと思っている。千四、五百米から上の富士山を原始のままに保存することの考えに私は賛成である。



於六義園 (43 6 15)

左・田辺重治氏 (牧野衛氏提供)

学生部例会

日時 9月17日(火) 18:00
場所 日本山岳会ルーム
議題 夏山報告他



千軒岳 (2)

一原 有 徳

あの時から十三年、昭和四十二年十月小樽の仲間七人と四たび、この山を訪れた。

中二股（袴腰合流）まで、車道がついて、トラックを走らせた。ここから夏の歩道もできていた。この二股合流だけ渡渉したら、あとは水量が少なれば足を濡さずとも進む。奥二股まで左岸廊下の上を越えて僅か十分、広川原まで一時間もあればゆける。それから十五分程で左岸の台地の金山番跡に殉難碑が建てられてあった。二m位のガマ石の上に、真白な十字架が立ち、正面上部に碑文がはめこまれていた。神、彼等をこころみ、炉の中の金の如くためされふさわしき儀として受け入れ給いき……

— 知恵書 —

以下略

碑の前にはミサを行う広場があった。広場の石崖は昔が生えて古い時代を示すものだった。歩道は切戸の沢とスキーで下った沢との間の尾根にある。私は、尾根道をとった。もう秋も終りで、山は木の葉の落ちた紫褐色と、その裾をイタヤが何かの黄色い葉の斑が美しかった。尾根から見た前千軒岳は、小日高の感

じで、日高を知らぬ仲間たちは感嘆した。稜線は風が強く、雪を混えて寒かった。大千軒岳へは二・三キロと標柱にあるが、軒なになく二十分でゆけた。走るように下り、若い四人だけが前千軒へゆき、私ら三人が下った。登り四時間半下り二時間半で、中二股の下り、むかえの車にのって、道最南端の温泉、知内温泉まで走らせ、そこで冷え切った身体をあたためた。

付記——土地の人は大千軒岳を、たいせんげんだけと呼んでいた。登山路ができてまだ十年とはたっていないが、地元の人たちは前千軒岳鞍部、切戸を経て、年に一度は登っていた。冬期は、戦前、日魯漁業の垣内佳三氏が吹雪の中を登頂したと直接聞いたが、積雪其の他の状態から、灯明岳との分岐点のようだった。（終）

高頭家去就

藤 島 玄

東京古書会主催の、西武古書大郎売展出品目録をみてみると、出品番号一〇六九〇 高頭式 自筆書簡 喜田貞吉宛 毛筆 明四四 五〇〇〇円が目に付いた。「日本山岳志」発行後のものが、明治三十八年以來、発降寺の再建論・非再建論筆の一方の花形であった史学者、文学博士喜田貞吉宛とあると、内容は見ていないが、美術史、建築史など史学関係のものであらうと推測される。

そんな話をかわしながら、ふと、高頭家にお仏壇がありますかと訊いた。越後では、お墓参りは珍しいほうで、お仏壇参りが普通の形式であるのに、お墓参りばかりで、お仏壇参りをした記憶がなかったからである。ここから後は、高頭仁兵衛翁の孫にあたる高頭寿久さん（四十三歳・新潟

市信濃町二〇番地、新潟県庁観光課勤務）の答である。

高頭翁は昭和三十三年六月亡くなられた。三十七年に翁の妹サキさん、四十年に翁の妻いきさんが相ついで亡くなられた。続いて四十二年十二月に翁の弟であり養子である当五郎さんも亡くなられた。長岡市深沢町の家には、当五郎妻アツ子さん一人となられた。深沢町の家は、敷地が広大である上に、豪雪地でもあり、七十歳近い一人暮らしは更陸上大変なので、四十三年六月、寿久さんはお母様を迎えて、新潟の同家で同居することになった。

翁のお墓は深沢町の正林寺に残してあるし、家敷あたりもそのままにしておくが、そこは誰も居ないことになった。そこで、お仏壇であるが、翁の在世中は、昔からの大仏壇があったが、それが傷んだので、現代風の小型のものにとり替えたのを、お母さんと一緒に私の家に引取りました。

翁の三代目寿久さんは長く観光課におられて、われわれとは長い間のお付き合いである。そうと聞くと一層高頭翁と身近かく感じるようになった。ここに今云う場ではない。右のような報告にとどめておく。 四三・六・二八

ジョン・ティンダルのこと

八十島 信之助

(札幌医科大学法医学部教授)

春さきの電車の中には、大変なほこりが見える。ふだんは気にならないが、横から日光がさしこむと、光の通路が白く明るく見える。空気中の微粒子による光の分散、このティンダル現象を初めに研究したジョン・ティンダルは山好きの物理学者であった。

前世紀の始め、一八二〇年にアイルランドのレイリンブリッジで生まれたジョン・ティンダルは、ほとんど独学で物理学を勉強したといわれている。のちにドイツに渡り、ブンゼンの門下に入った。ロベルト・ウィルヘルム・ブンゼンは例のブンゼン灯を発明した人である。イギリスに帰ったティンダルは、一八五八年に王立科学研究所の教授になった。前任者は電気分解に関するファラデーの法則を発見したマイケル・ファラデーである。

筆者のもう一世代まえの小学生は、学用品として石板を用いたそうである。建築材料にも用いられたあのスレート（スレート）の平面に、石板といわれた滑石の棒で書いた字は、布でこするとすぐ消えるので、石板は筆記用具として永久的に使えたのである。このスレートという石材は、鉄の道具をそのふちに打ちこむことによって、特有の劈開面で割れ、薄い板ができるという性質がある。雲母にもこういう性質があることは誰れでも知っている。

ティンダルはこの現象を研究していたが、その結果を一八五六年の六月、研究所の定例の金曜講演会で発表した。この会場には親友のトマス・ヘンリー・ハクスリーも来ていた。五才年少のこの生物学者は、この時には鉱山大学に勤めていたのだが、後にロンドン大学の教授になり、チャールズ・ダーウィンの進化論を支持し、弁護、宣伝、普及につとめたので知られている。

講演をきいたハクスリーは、ティンダルの研究が、本で読んだことのあるアルプスの氷河の水の薄片構造と関係があるのではないかと叫び出した。もともと山好きのこの二人は、その夏スウィス旅行を計画していたのだが、少しばかり予定を変えて、氷河の科学的な観察をすることにしたのである。一八五六年、この年は彼らの英国で

はトルコとの間の戦争、ナイティンゲールが活躍したクリミア戦争が終り、また東洋にも進出の足をのばして、中国との間にもアロー戦争のあった年だし、日本ではアメリカ合衆国の領事タウンゼンド・ハリスが下田玉宗寺に領事館を開いた年である。ほかに目的をもたない、ただ山に登ることを目的とするスポーツとしての登山は、一七八六年、バルマとバカルがアルプスの最高峰であるモン・ブラン（四八一〇m）に登ったのを最初とするといわれている。だからティンダルのこのスウィス行は、アルピニズムのはじまりからはまだ七十年しかたっていないことになる。

もっともティンダルとハクスリーの目的は純粋な登山だけではなかった。氷河の物理学的な観察という大目的があったのである。アルピニズムは主としてイギリス人によって開拓されたといわれる。しかし彼らのあこがれのまとの、少なくともその一つであったであろう万年雪におおわれた氷河のある高山はイギリスにはない。登山らしい登山をするためには大陸に渡らなければならないのである。

東洋で風雲急を告げているこの時期にも、英本國では非常時かぜが吹きあられていたわけではなからしい。ロンドンから海峡をこしてパリへは一日の行程、既に汽車は開通して、また次の日はバゼルにつくことができた。一八五六年八月の遠征では、ユンクフラウ・ホテルに泊って、ユンクフラウ、アレッチホルン、メンヒ、アイガーなど三九〇〇mから四〇〇〇m級の山を眺めながら、氷河の観察を行なった。その後チロルを通り、ヴァインを廻って帰国した。つづく



常さん小伝 Ⅲ

初見 一雄

それと前後した年であったと覚えて
いるが、ある女性から面会を申しこ
まれたことがあった。

その人はまだ在世中だとすると登山
に關係ない人というが名を伏せる
のは当然であろう。声楽家である。

用件は常さんに紹介せよというので
ある。どこで聞かえてきたのか、近況
に一番詳しい人というお名指しで小生
を選んだようだ。

そのアルトの歌姫が登山に趣味があ
ったかどうか一切は忘れてしまった
が、とに角上高地へ行くから是非とい
うのである。それに常さんのことはよ
く調べがついているし、知識も豊かな
のである。

別にあらたまった紹介状など必要の
ないこと、お持合せの情報の半分以上
は伝説にすぎないことを力説して暗々
裡に方向転換をすすめたのであるが、
大変な興味を示してくるので、受太刀
になるばかりである。

単純な興味以上に次第次第に熱っぽ
くなってきて、手持ちの情報を分析し
ながら、何がしか面会をみずんばの気
迫も感じられるので、もししかして棲み

こんでしまいかねない恐れなしとはい
えなくなってくるのである。

ステージ用の、つまり営業用の音声
で書き取りしてきたのであるから、
書き手の方は、未来の妙音と、うっ
りしてくるのもわりはあるまい。浮は
ついているとは思えないものを披瀝し
てくるその執心さに圧迫されて、こち
らはうなづきをたれて拝聴するばかりな
のである。

おまけに、この姫は男性とみわけに
くい磊落さと大変人なつっこい性格ら
しく、初対面から三十分ぐらいい経過す
るといとも気安く「初っあん」などと、
仇名の一人称で呼びかけてくる有様で
あるから、このスピードであと三十分
進行したら、我が身の上にいかなる変
化を生ずるのか、と心細くなってくる
のである。

しかし、まことに残念乍ら会談は公
明正大を踏み外さないうちに終ってし
まったから、幸福な結果も不幸な結果
も窺わさなかったのは自他共に助か
ったことであるし、常さん訪問の一件も
無期延期ととり決めが成立したので、
上高地の泰平は保たれたし、一応三方
無事に収まりがついたのである。

無残にも、薔薇色の希望をふかけに
したわけではないが、相談をふかけに
た身になれば、どうにもこの気持が分
りかねるのである。

当時すでにあったかと思う新聞の
「身の上相談」にもたよらず、婦人雑
誌の「お答えします」も利用せず、な
げがしく、考えるべきでないことを、
軽々しく、しかも唐突にきりだして
くるその精神状態は訝かしい、考えるに
つれてますます分らなくなってくるの
である。

丈より幅の方が膨張しているのは、
怪しからんと文句をつける気はない
が、その性格の持主はみるからに頑丈
向きで、典雅な音声と優しい心意気に

そぐわず筋骨たくましく映るのは天の
下し給うた試練であろうか、ここで彫
刻女史に大きく差をつけられてしま
うのである。

追いついて、やれ嬉しやの縁談も
飛び立つ方が一足はやく、纏りがつか
ないのだと、問わずとも語るに落ちる率
直さに、むりもない、むりもない……
と年下を失言であつたが、信州の山
の中よりこちらの方でイキの好いところ
をと出なかった次の失礼千万は危く飲
みこんでしまったから、円満無事の対
話の場であつたと思うし、すっかり気
前のよくなったアルト嬢は音楽会の招
待券など贈ってくる始末になつたので
ある。

日本民族独特のものか、ラテン民族
にも共通するものなのか、又は総ての
女性に汎くある母性的なものなのか
「不憫ばれ」という高尚な女性感情が
横わっているそうである。

これは生半可な知識であるから正確
無比とはいえないが、
酷薄なる肉食動物にはなくて、草食
動物ならあるものなのか、この方面の
専門家の教えを乞わなければならな
いことである。

この言葉は広辞苑にものっていない
が、ある本で瞥見したことはあるには
ある。

これを発見——大げさなはずだが
「したは数十年たつてのことだから
手遅れも甚だしい、しかし、これだ、
これに違いないと思いついたら、やっ
と腑に落ちてきたのである。
あれが「不憫ばれ」というやつかと
腑にはおちたもののこれと常さんとの
関係、というか結びつきというかをど
う説明できるのだろうか。
人類の愛情問題はこの伝記と深い関
係があるわけではなし、又「不憫ば

れの淵源を究めその将来への展望に及
ぶ」というような大論文をものそうと
の野心は毛頭ないが、お粗末乍ら自分
だけの、自家用分の解釈はしてみたつ
もりである。

体験したこともないくせに何をいう
かとお叱りはおもったが、想像し
てみるに、この愛情は一方交通が原則
である。しかも行止りというか終り
を完了することが難かしからうから、
上高地は地の利を得ていることにな
る。犠牲的精神と寛容の心掛りが旺盛
でない、と、学と教養の差を埋められ
なくなる。

不自由しているのを見ていられなく
なる気持、なんとか世話を焼いてやら
なければ、とさし迫ってくる感情、そ
れらが募ってきてしりとりとなり、や
がて激になって心の底にたまってくる。
それが何かのはづみで沸騰してくるの
ではなからうか。

面倒をみてやらないことには、その
人間が立ちゆかなくなるし、生きても
ゆけまい。その面倒をみるのは自分を
おいて誰かがあるうか、と高邁なる資性
は信仰にまで高められて、オルレア
ンの聖女のように進撃してゆくのであ
ろうか。

それとも尽ることなく溢れでる善意
に自身から溺れこんでしまうのだから
沸騰しないまでも、しこりをほぐし
ておかなければ精神衛生上よろしくな
いは当然である。それに、感情は
すぐさま理性を飛びこえるのがこのほ
れ方の特徴であるとする、いてもた
ってもデリデリするばかりだ、かくな
るうちは押しかけずんば止まずの勇氣
も倍增してくるものなのであろうか。
経験の不足は知識の貧困であり、更
に説明の愚劣不備につながるのを御寛
恕願うとして、しからば、と聞き直
してみても、時すでに遅く手のくだし

うもないのが当方の実情である。
かといって、異性のと纏綿たる諸問
題には、孤高我之に触れず、道心堅固、
修道僧の如く暮してきた、と信すべ
からざるようなことをいうつもりはな
い。冷静無双、パンチ力(ビー級の)に
ばかりぶつかるからついていけないだ
けなのである。(未完)

「山岳」広告のお願い

「山岳」第六十三号は本年十二
月刊行を目標に編集をすすめてい
ます。御高承の如く、巻末に広告
を掲載しておりますが、この広告
は「山岳」出版のための大きな財
源でもあります。皆様によりお願
い申上げる次第です。お心あたりの
ごさいいます方は事務局までお知
らせ下さい。(8月10日・10月20日)
▽広告料金(印刷黒一色)
普通1頁(25×35×8.0cm) 51,000
1/2頁(25×35×4.0cm) 25,500
1/3頁(25×35×2.6cm) 17,000
英文見返1頁 25,000
奥付見返1頁 25,000
裏表紙見返1頁 25,000
(以上)

「山岳」編集委員会

◆志鷹光次郎君逝く◆

43 8 6 付の読売夕刊で光次郎(71)
が芦荻寺の自宅で胃癌のためこの世を
去ったことを知った。彼を仲間として
歩いた人も多いと思うが、私も彼とは
五月と三月の二度、立山、針ノ木及び
その逆をスキーで歩いたことがある。
四〇年前のことである。お世辞でなく
本当にいい男であった。(吉沢)



コロンビア・アンデス

北側から見た Santa Marta 山群の主峰

(左) Pico Cristobal Colon (5775m)

(右) Pico Bolivar (5775m)

静岡大学隊 (1967) 撮影
会員・山本良三氏 提供

海外登山隊

一九六八・V

③第二次RCCウシユバ登山隊

活動地域 コーカサス (カフカズ)

地方

登山目標 ウシユバ南峰 (四七〇一m) 北西稜

隊員 清水一行 (団長、35)、塚本

圭一 (隊長、37)、小林年 (副隊

長、35)、車義久 (マネージャー、

27)、木村紀夫 (27)、福岡瑠祐

(26)、中道孝則 (25)、京極統一

(24)。

総経費 一六八万円 (各自二万円

⑤ヒンズー・ラージ冬期

踏査隊兵庫山岳連盟

活動地域 H・R 南部

Laspur 谷源頭を中

心とし、冬期におけ

る殆んど初めての踏

査を行なう。

登山目標 Shohi Pass

の周辺、特に5907m

峰。

隊員 西村清一郎 (隊

長、31)、松尾秀樹、

白倉勝治 (26) 他に

二名参加の予定。

総経費 二〇〇万円 (?)

尚、活動期間は 1968・11~1969・2

本年度でわかつているのはまだB隊

とO隊とがあるが、これはまだ発表の

段階に至っていない。いずれ近いうち

にこれらについても御知らせ出来るこ

とと思う。

カラコルム情報

これは多くの海外登山愛好者にとっ

て、可なりショッキングなニュースで

あると思う。私の仲間で、アンデス

の時 (一九六一年) に一緒にいた中村

保君 (JAC 会員、石川島播磨重工動

務、カラチ駐在) から来た最近の情報 (Morning News, July 2, 1968) によると、英国のマンチェスター隊がマルビティン (Malitina, 7650m) 攻略を目指してパキスタンに来たというのである。

隊員の数は八名で、隊長はジョン・アレク (John Allen, 26)、その他の氏名、年令は不明。ラウルビンディの新聞記者に対する非公式な話によると、攻撃は七月二日に開始され、二カ月後に山麓において来るという。

この山に対しては昨一九六七年、一橋大学が許可を申請し、九〇%までの希望を持つことが出来たに至ったのであるが、土壇場になってHKに変更せざるを得なくなった赤れつきの山である。この山の許可が本当だとすれば、パキスタンの国内事情がかなり変わってきたであろうか。とすれば

連鎖的にインドもその考えを変えてもいいと思うし、カシミールやガルワール等の開放、愚図愚図煮え切らないネパールにしても、そろそろその態度を瞭っきりさせてもいい時機にきていると考えると悪いことはあるまい。

それにしても山というものはあしたとか来年とかに無くなってしまうものではないから、じっくりと研究してから、行列のお尻についても遅くはないと思うのである。

NANGA PARBAT

Bergsteiger, Mai, 1968

世界最高の壁

ナンガ・パルバット・

トニー・キンスホフ

アー・追憶遠征登山隊

◆

パキスタン政府は、政治的な考慮を背景として、長年の間計画していたドイツのNPP遠征隊に、例外的な許可を与えた。パキスタンにおける政府の裁決

は、西独連邦政府に対する特別な応諾と見做すべきである。西独NPP隊の今度の遠征報道の冒頭にはこんな風に書いてあった。山の世界にも政治は構わっているのである。こんなことは不必要な時代が早く来て欲しいものと思う。

◆ 隊員 (十二名)

Karl M. Herrligkoffer (51, 隊長、医務、カメラ)

Wilhelm Scholz (28, 隊長(代理),

Günther Schnadt (34),

Wilhelm Dirmhirn (28),

Karl Golikow (33),

Siegfried Hupfauer (27),

Reinhold Oberster (26),

Günther Strobel (26),

Wolfgang Thaurer (26),

Roland Voteler (25),

Hans Künzel (44, BC 管理),

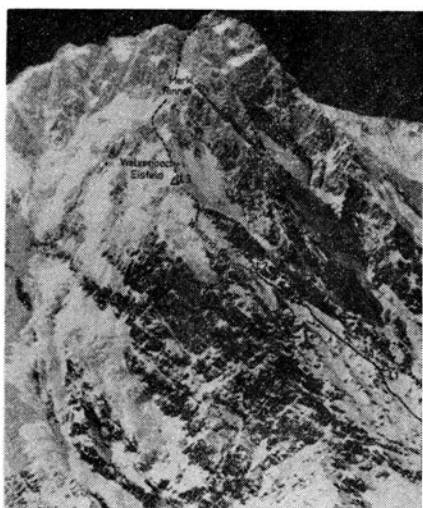
Beatrice Kaltenbach (23, 医務

助手)

Sirdar-Tsa Khan (隊長と五回N

P 遠征に参加)

High porter, 10 (Hunza)



総経費
二〇、〇〇〇DM
(邦貨、一〇八〇万円)
隊員負担額 各四〇〇〇DM
(三六万円)

活動目標

一、NPPのルバル壁登攀

二、高所生理学、薬学

三、地質研究

× × ×

ルバル壁について

ヘルリッヒコフラーのナンガの

リレーションに対する執念は深い。

1961年5~6月 Diamir 7150m 峰で

1962年5~6月 新登頂

Kinshofer はこの時下降中墜死

1963年6月 Rupal 5000m まで

Rupal Peak (5970m)

1964年2~4月 Rupal 5800m 峰で

× × ×

この山に携えた写真は DAV の隔月

刊誌 'Mitteilungen-Jugend am

Berg, 3 (Mai, 1968) S. 122 に出

てたこの山が Merkl Rime,

Welzenbach Eisefeld, L3, Wela-

nd Gletscher, L2, L1 と記入して

ある。L というのは

Lager (Camp)

のことである。

今年彼らのとる

と予想されている

ルートが黒い筋で

入っているから、

御参考になると思

う。この「山」が

出る頃にはもうそ

の結末が出てい

かも知れない。

× × ×

(吉沢一郎)

★海外通信★

チトラールから

山野井武夫

出発に際しいろいろお世話になりました。六月十九日チトラールに入りました。今のところ予定通りです。六月二十日P・Aに挨拶して登山と調査の許可を得ました。よほど大規模な登山隊でない限りチトラールのP・Aの許可だけでOKなようです。私たちの場合予備調査であることを前面に押し出していただけて簡単にOKになりました。

登山については三田会長のリコメントーションを提出しましたがイストオナル周辺の偵察だといったところOKでした。(ただしリサーチ・パーティーはリポートを出す義務があるのとことです)

六月二十二日キャラバンを開始出来そうです。八月一日ごろチトラールへ帰る予定です。(西川益生)

気楽な二人旅なので海外はほとんど終わり、あすからイストオナルへ出かけるつもりです。約十日のキャラバンの後イストオナルの南面を十五日くらい偵察をする予定です。七月末までにはチトラールへ帰る予定です。得意の第七感というやつで、これからの山の生活が始まります。シーズンにはまだ早いようだが、六月末から七月中旬までがここに登山隊の集まる最盛期のようです。

六月二十一日(小原勝郎宛)

東グリーンランドより

五月 女 次男

まず簡単に東グリーンランドの一般事情をお知らせします。最初に問題に

なるのは部落間の輸送ですが、五月下旬までは大ソリを使います。六月からは年によって違いますが、大体海水(フイヨルド内)だけで走ります。この海水の状態を一言で表現するのは非常に難しいことです。例えば少しいき風が西から吹き出すと、フイヨルドの中にある氷山は外海へ押し出されます。逆に東からの風が吹けば再び凍結したような状態になります。これは日によって変わりますので予想は困難です。……というわけで、ここでは天候や氷の状態を予想する場合に常に「多分」なのです。

誰れにも確実なことはわかりません。海水の状態に関する限り過去のデータはそれほど役に立つとは思われません。

少くとも六月下旬まで(八カ月)は全ての物資は前の年に貯蔵されたものを順次消費するわけですね。これはかなり計画的に運用されておりますので不足するようなことはありません。食糧はぜいたくを云わない限り何でも手に入ります。もちろん、新鮮なものは望むべくもありませんが、石油・石炭も十分に貯わえられてあります。

犬とグリーンランドの雇傭について、一九六六年のマイク・バンクスの報告と変わっていません。ただし、価格は年々上昇しています。犬は借りるよりも買入れた方が安くなります。ここでは犬はよく訓練されておりますので遠征隊が早くから出掛けた訓練する必要はありません。犬の餌もここで手に入りますが、年によってその種類と価格に相当の変動があります。物は価は大体においてデンマーク本国なみか、少し安いようです。外来者のための宿泊設備というものは全くありません。

東グリーンランドのアンマスサリッ

クを中心とした山岳地帯を SCHWENNERLAND と呼んでいます。今年はこの地域の内地へ我々の他にイギリス陸軍の遠征隊が入っています。彼らはロンドンから直接に陸軍の飛行機で、そして二つの荷物を投下(クリスティアン氷河の奥)し、そのままたるスベックに着陸という一九六六年のインペリアル・カレッジ遠征隊の方法を踏襲しています。落下傘による荷物投下が東グリーンランドの山登りには最も良い方法と思われる。将来はスキーをつけた飛行機をマウント・フォーレルの近くに着陸させることも十分に考えられます。

大ソリは、それが目的でない限り使用には問題があります。混み入ったクレヴァス帯(特にその下り)では全く使用に耐えられません。それどころか危険です。また犬を六十日間使用するためには、300kgの食糧が必要です。詳しくは計算してありませんが、チャーター機による落下傘投下のほうが安くつくと思われ。今後の研究課題と思われ。

今年は日本隊、イギリス隊の他にも、イタリア、オーストリア、フランス、イギリス登山ではなくカヤックの各隊が東グリーンランドの山岳地帯に入ります。スウィツァーランドの山岳地帯は、おそらく今年のうちに未登頂の山はなくなってしまうものと思います。すでに我々が目標としたアベンガーデンの最高峰は昨年、インペリアル・カレッジによって登られております。それにも、ネパール・ヒマヤラが解禁にならぬ限りヨーロッパ諸国の登山家にとって東グリーンランドはまだ魅力があります。スピッツベルゲンから比較すれば、そのスケールとい

なれば、将来さらに多くの遠征隊が訪れるであろうとは、我々とイギリス隊の一致した意見です。(6月14日付)(松田雄一宛)

カナダより

東北大学ルケニア隊
目 邦 雄

出発前は色々御教示を有難うございました。五月二十三日、Anchorage 着。その後、方々へ情報を得にかけめぐり、昨日、レンタカーで若野さんのおられたAINAのKluaneのベイスにきました。途中、RangiesのMt. Drum, Mt. Sanford など素晴らしい景観に何度も車をとめました。

今、第一便で阿部、中津二名がLancania Mt. にひとたち、天候は薄雲がひらいていますが上々です。すでに府岳連の Vancouver 隊、レンレイ山岳会の二名が Mt. King に入っています。頑張ってください。(6月7日)(吉沢宛)

リマより

依田 雄 弘

東京では出発前まで色々お世話になりました。スペイン語はできなくとも、何とかリマに辿りつき生活しています。先日、Ticullo の峠へ全員でドライブに出かけ、約四八〇〇米に立ち、おそろおそろ歩いてみました。そのうち、誰れともなく走ってみようと云い出し、駆け足をしてみましたが、動悸はしますが、頭痛や吐き気はなく一安心いたしました。荷物は密輸事件に気をもんでいますが、まだ見当もつきません。

いづれくわしいことは渡辺隊長から山岳会へ報告いたします。(吉沢宛)

ボリビアより

栃木県山岳連盟アンデス登山隊
隊長 阿部 重 男

出発に際し何かと御教示有難うございました。五月二十日午前十一時、ラパスに着きました。ラパスでは日本人会の設置したグラント・ホテルに宿泊しました。朝食つき約一・五ドルですが結構いけます。荷物は大使館の協力を得て全部無税通関ができました。トヨタボリビアの倉庫を一番借り切って、そこで梱包の整理をしています。

アンデス・クラブという現地の山岳会も協力的です。が、山行にはそれほど当てにはできないと思っています。隊員には全員元気がです。五月二十八日朝、登山に出発します。第一目標であるキムサクルス山群に約一カ月入山します。先発隊が三日間偵察に入りましたが、キムサクルス東面でチェックタンガ峰が確認されておりました。

我々は二十八日にトヨタのトラックで入るだけ奥へ入り、そこを拠点とし付近の山の概念をつかみ、その後本格的なアタックにはいり、六月末に再びラパスに戻ります。そのとき、また御報告申上げる予定です。(5月27日付)(吉沢宛)

第二信(ラパスより)

五月二十八日、ラパスを出発いたしました。六月二十一日ラパスに戻りました。キムサクルス山群にて八峰に初登頂、その他、ハチャクノコリヨ(第3登り)に登りました。

最初の山は、サンフェリッペ(5700m)です。地図がお手許に届いていると思いますが、図上中央、主脈から北方に離れた山塊です。なおその両側に付随するような2峰と、その向い側の主脈上 Nudo Aitoroma から Cigande

Grande まの間の3峰に登りました。

ボリビア山岳会のマルチネスが同行しました。彼の話では、いずれも未踏峰で、サンフェリッパ以外は無名だということです。命名につきましては栃木岳連の坂口から問い合わせがあったようですが、たいへんふしつで恐縮に存じます。こちら新聞社が一枚加わっておりますので何かとお騒がせすることが多くて申し訳ございません。

ラパスではトヨタボリビアの河合社長が非常に協力して下さり、入山には本当に助かります。キムサクルスには非常に不便なところですが、鉱山がよく開かれており、相当、山ふところまで道路がありまして、BCとACひとつで登れる状態です。キャラバンには、リヤーマを使いましたが、仲々集まらず手をやきました。50頭使いたるところ、20頭しか集まらず、三回にわたるため三日つぱしりすることになりました。

昨晚、ドイツ登山隊と交歓会を開きました。彼らはアポロパンバで登山活動を終えて帰ってきたところです。一橋のタロー・ハナコの側で登った山の説明をしていました。資料を入手したいので、さらによく調べてみたいと思います。カール・グロスが、イチロウ・ヨシザワによくしくと何度も云っていました。カナダの登山隊も来ているそうです。

明後六月二十七日からサハマに向け出発いたします。七月十五日ラパスに戻る予定です。その節にまたお便りいたします。(6月25日付)

(吉沢宛)

ラウルビンディより

時田昌幸

(学習院大学山岳部)

出発前は多忙にまぎれ御あいさつもできず大変失礼いたしました。

私たちは十九日に先発一名が、二十六日の便で本隊がカラチへ飛び、ここで合流しました。通関については、カラチの領事館の松田様や日航の方々のお陰で保釈倉庫に入れることもなく、翌日には引取れました。すぐエクスエとしてチトラルへ送りしました。

二十八日には全員ラウルビンディに到着し、イスラムバットの日本大使館に行きました。ここで札幌医大・早大のバティにありました。カラチでは正式許可を取りました。カラチでは法政にありました。法政は荷物を船で運んだため通関に非常にでまどっている様子でした。二十七日現在では、まだ荷物を受け取っていないようです。私たちの予定は三十日にチトラルへ飛ぶつもりです。

このラウルビンディは日中は暑いのですが、夜になればカラチより、ずっと涼しく涼しく感じます。

また御連絡いたしますが、先づは御報告のみ……。(6月28日付)

(吉沢宛)

アマゾンのイカダ下り

植村直己

残雪の候となり、山岳部は新人を迎えて新しい空気に活気にあふれていると存じます。

今、私は申訳ない次第ですが、海抜二〇〇米とないアマゾン川の上で単独イカダ下り始めて、最後の旅を遊んでいます。アンデス裏 Yurimagas を四月二十日にスタートして十四日目の五月三日ブラジル国境に近い Igatios の町につきました。約六〇〇軒下りした訳です。今イキトスの町でイカダの修理、食料の買付けなどとして休養をとっております。

十日頃又続けてイカダ下り降を初め、

ブラジルの都市、Manausまで行く予定です。マナウスまで約一カ月、河口まで二カ月と見ております。

高度差の殆んどないアマゾン川ですが、時速一五・二〇ノの急流にはキモを冷すところが多々ありました。全然何も知らないアマゾン川の第一段階の上流が無事終了しましたので、これから先もイカダ下りが出来る目安が着きました。マナウスで上陸して一週間はかり休養をとる予定です。小生のマナウスの住所はありませんが日本領事館に寄る予定でありますから、何かニュースがくれば、領事館宛付で便り頂きたく存じます。

では皆様宜しく

追而 会員植村直己27歳(明大OB)

ゴジニェンバ(登頂者)は昨年、国際アルピニスト集に本会から推せんされ、伊藤領司と共に現地フランスのモリジンスから参加、終了後、グリーンランド、南米アコンカガ、他ベルアンデスの六五〇〇米二峯を何れも単独登頂後、北米へと思ったところ、どうもゼニの都合つまず、放浪最後のアドベンチャーをアマゾン大河のイカダ降りにふり替えた訳である。

日本を出てから足かけ五年、この間フランスをベースにしてアフリカ、ヨーロッパ、ヒマラヤへと足を延ばしている。帰国前に南米、北米は彼の念願であったらしいが、遂に北米の山だけは今度は、足跡を印すことが出来ない模様である。

(大塚宛)

カリフォルニアより

阿岸 充穂

明子

長らく御無沙汰いたしておりますが私共、去年九月にカリフォルニアに参りまして、はや八カ月も過ぎてしま

ました。毎月、船便で送られてくる「山」を通じて皆様の御活躍を拝見致し、心強く思っております。

さて私共はこちらに参りまして、Sierra Club に入会致しましたが、この夏には、Mount Rainier, Washington に登る計画があります。Sierra Club は毎年 Foreign Treips を企画し、今年は Andes, French Alps, Venezuela, Guyana に6Groups, 二〇人出向いておりますが、来年(一九六九)には日本へ A, B (4 weeks, 6 weeks) begin mid-July, C, D (4 weeks, 6 weeks) begin mid-Sept. と四パーティが出向く計画のようです。

その時には日本山岳会の皆様のお世話になると思いますが、私共は留学の身分で、それまでに帰国できそうになく残念に思っております。

同封の Money Order 6ドルは遅くなりましたが、JACRUM 基金の足しにさせていただきます。日本円の持ち合せがなくお手数をかけますが、私と妻とで一口ずつのつもりです。

カリマントン便り

神原 達

昨年五月当地に参りまして以来、一年経ちました。ともかく何も無いところに石油掘りなどのための鉱業所を開設し、現地人を雇い、資材の通関を行ない、そして駐在員も少しずつ増加して今は十人になりました。本年中には二十人になる予定です。その宿舎の確保、建設、事務所の建設等毎日多忙な日が続いております。目下下請の人員だけが総計二〇人近くの日本人が、石油を探しています。

マカッサル海峡の海の色は何とも云えず美しく、それだけがなくさめで、ここから油が出てくるというのは、少

々海をよこすように気に入ります。ところでネパールがヒマラヤ登山を解禁するとか。最近のニュースをお知らせ下さい。会の皆様によりしくお伝え下さい。

(五月二十一日付バリックパンにて)

松田宛)

(連絡先)

c/o Japex Balikpapan office, c/o P.N. Pertamina Unit IV Balikpapan, Kalimantan, Indonesia.

(注)

六月十一日の新聞報道によると、神原氏の勤務先の JAPEX カリマントン鉱業所のタンジョン・サンタン海岸観測所が武装した強盗団におそわれ、日本の測量班二人が殺傷されたこととありますが、神原氏は別の基地にいたため無事だったこととあります。

計 報

松宮三郎氏 元会員、六月二十五日胃かいようのため東京・世田谷の久我山病院で死去。八十五歳。葬儀は二十日世田谷区成城町五七六の自宅で営まれた。氏は大正三年四月入会。会員番号三四五番。大正五年八月、百瀬慎太郎、石川欣一氏と白馬岳登山。大正七年八月、島崎一氏と二六〇〇米高縦走(穂高縦走は坊主が一日で上高地に出る)。また大正六年十月十日帝國ホテルでの第十八回有志晩餐会、大正七年一月十四日日本橋倶楽園での第十九回有志晩餐会などに出席されている。早大卒業後三越広告部長をつとめ、「きょうは帝劇、あすは三越」のキヤッチ・フレーズを作ったのは有名。

「江戸の看板」という著書がある。また早大山岳部の創立当時種々側面から援助され、稲門山岳会々員でもあった。(山崎)

アフガンより

高木泰夫

いろいろと御無理を申し上げ、また御教示をいただき有難く感謝いたしております。

何と申しますか……アフガン・ボケといっておりますが諸事忘れっぽくなっておりますので、乱文をお許し下さい。

地図は五万分の一が全地域にわたって出来上りましたが、ワハン以外は正式ルート（大使館経由）にて得ることができません。私どもは、北は37度。南は35度。東は71度。西、79度5分まで本日獲得する予定です。地名その他は完全に英文で入っております。帰りましたら、またくわしく御報告申し上げます。ワハンは全てダメで、私どもは、はじめにこの地を要求し、そのため獲得するのがおそくなりました。

(吉沢宛) (6月19日消印)

タクロバンより

松田雄一

七月の定例編集委員会に欠席いたしましたし訳がありません。フィリピン、サイパン海をとりまく島を、ひとつずつ丹念にサーベイしております。昨日は、セブ島の Cebu City からレイテ島の中心、タクロバン・シティにやってきました。戦後23年もたつと、さすがの激戦地も、つわものどもの夢の跡と申しますか戦争の跡は全くありません。雨季に入りかけているレイテは涼しく快適です。これからサマール島へ船で向います。(7月9日付)

(編集委員会宛)

あいさつ

早稲田大学
ヒンズークシ遠征隊
隊長 立花 種 則

この度は、当「早稲田大学ヒンズークシ遠征隊」に絶大なる御支援を賜り、誠に有難うございまして。

お陰をもちまして、去る五月十四日に先発隊二名が横濱港より出発致し、六月十四日西バキスタンのカラチ港に到着致しました。また後発隊も来る六月二十八日羽田より空路カラチに向け出発致すこととなりました。出発に際しましてこれまでの皆様方の御援助並びに御協力に厚く御礼申し上げます。尚、帰国は十一月初旬の予定であります。では元氣に行つて参ります。

(6月24日)

ヒンドウ・クシ

學術遠征隊

湯浅道男

此の度は我々ヒンドウ・クシ學術遠征隊のために多大なる御援助に御協力賜り厚く御礼申し上げます。お陰様で第一陣（湯浅・黒宮・伊藤）は十一日出発致しました。

後発は六月二十一日十三時二〇分JALにて出発いたします。御礼旁々御報告申し上げます。

(吉沢宛) (6月21日消印)

岡本電行

日差しが強くて木陰のほうがかい季節になりましたが、いかがお過ごしですか。私は昨年からはヒンドウ・クシ山脈の最高峰ティリチ・ミール（七七〇八メートル）の登頂を目指して計画をすすめておりましたが、このたび多くのみなさまの深い御理解と御援助により、東海大学が派遣する山岳部の第二次ヒンドウ・クシ遠征隊の隊長と

して六月八日の十一時に横浜港から出発することになりました。わずかに三名の小さな隊です。登山は八月下旬に終る予定ですが、私は帰途アフガニスタンのコ・イ・ババ山脈を越えるつもりなので九月末に帰国いたします。御支援を心から感謝いたしますとともに出発の御挨拶を申し上げます。

雁部 貞夫

このたび、七月下旬より約二カ月半にわたりヒンドウ・クシの高岳の登山と未踏地帯の調査を行うことになりました。当地におきましては日頃の私共の登攀と未知なるものへの情熱を満すべく最善を尽すつもりです。

これもひとえに皆々様の常日頃の御指導、御理解があったればこそ感謝致しています。今後共よろしく御指導、御支援の程お願い致します。敬具

(吉沢宛)

★ ★ ★

この度は学習院大学輔仁会山岳部ヒンズークシ遠征隊に多大なる御支援と御協力を戴き厚く御礼申し上げます。御隊をもちまして六月十九日、JAL四五一便にて、また現役二名も六月二十六日JAL四五一便にて出発いたしました。

皆様の厚い御厚誼に深く感謝いたし今後皆様の御期待に背くことのないよう努力いたしたいと考えております。とりあえず書面をもちまして御報告申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。(昭和43年6月12日)

学習院山岳会々々

山岳部長 松方三郎
山岳部長 木下是雄
遠征隊長 賀田統亜
事務局 藤井昭孝

追悼文御礼

石黒 せき

梅雨空の鬱陶しい日和が続いております。御会益々御清泰の御ことと、心から御慶び申し上げます。

この度は亡夫清蔵追悼文を掲載され、御立派な「山岳」を御惠贈頂きまして、心から有難く拝受いたしました。山岳会の御幹部の皆様、暖かい御厚情の賜と、厚く御礼申し上げます。早速と雲前に供え私が朗読して、皆様の御厚志を伝えさせて頂きました。

泉下の霊もきっと自分の歩いた足跡が、少しでも理解されたことを知り、どんなにか本望満足している事ではないでしょうか。この「山岳」は内の宝として永く永く保存し、子孫にも伝えたいものと思っております。

去る四月頃でしたでしょうか、吉沢一郎様立山方面へ何かの調査にお登り遊ばされし時、わざわざ拙宅へ御立寄り下さい、御慰問を受けました。承りまして、この度日本山岳会の副会長に御昇進遊ばされたとの御事、まことに御目出度く喜ばしい事に存じます。亡夫存命中ならばさぞ喜んでいただろう。何卒吉沢一郎様には、くれぐれもおよろしく御伝えの程お願い申し上げます。亡夫の山での事故がありましてから、早くも一周忌を迎えようとしております。そろそろ夏山シーズンも開幕です。例年ならばそわそわと山の情報収集に余念のなかったことを想い出し、一きわ感激の深いものがあります。山登りを生甲斐にしていた夫の側にあらぬが、あまりにも関心のうすかった過去の私のことを、今更のようには悔いております。今少し関心を示し理解が深かったら、どんなにか亡夫も誇り高く勇躍して、山岳会のために全力をつくしていたであらうでしょう。

に。せめて故人の遺志をついで、多くの山の犠牲者のために貧者の一灯でもともし、祈り続けていきたいと思っております。

末筆ながら日本山岳会の益々の御発展と御隆昌を心から祈り上げております。

六月二十六日
日本山岳会御中
かしこ

沖電気工業芝浦山岳部

昨年四月当山岳部、石田・伊藤両君が南ア門沢で遭難の際は、皆々様に多大の御協力を頂き誠に有難うございました。早いもので早や一年を経過致しました。本年五月連休に追悼山行を行い、ささやかながらレリーフを作製して大門沢左岸のたび地点の岩に取付けました。

以上をもちまして本遭難に関する一切を終了、今後は当山岳部も基礎より再出発し、一日も早く健全なる山岳部として活動できるよう努力いたします。貴会の今後の御発展をお祈り申し上げます。

昭和43年5月
敬具

彫塑の寄贈

本会々員の今川良雄氏から高さ約六十センチの石膏彫塑が寄贈されました。ザイルを肩に岩塊を仰く若きアルピニストの立像で、ルームを飾るにふさわしい立派な作品です。

氏は日本彫塑会員であると共に、古くから山に親しみ、昭和九年に入会された会員で、去る四十一年自分の還暦と、本会の六十周年を記念して、この作品の制作を企画された処、一時健康を害されたため、不本意ながら今日まで延引していたが、此程完成したので寄贈すると、申添えて来られました事を、併せてお知らせします。

事務局



図書紹介

大島亮吉著

『先蹤者』

(復刻版)

日頃多忙極まりない私にとって、本書の批評の如きは甚だ不向きと考えるのだが、永年『山岳』編集者としてひとさまにペンを執らせたお返しとやらN氏から今度はお前が書け、と云われてみれば、否とも云えず、やむなく亮筆をとる。

本書復刻の当否について触れると、それだけでも長文となろうから、それは誰かかに任せるとして、出来上った復刻版だけについて、思いついたままを述べる。

いったい復刻本は、①できるだけ元版に近い姿であるのがよく、②また万が一版にミスがあれば、それが訂正されていなければならないまい。

第一の点については、「聊かなり」とも価格の低廉を図るため「挿入の写真はアト紙でなく本文に刷り込んでいながら、しかも本書の内容には何ら関係のない日本の山のカラー写真を巻頭四頁に亘って挿入したことが問題になる。金のかかるカラー印刷を廃して元版の写真をそのまま生かすのが本当であり、その点編集者の良識を疑う。な

お元版にない大島氏遭難当時の新聞切抜きの写真等がゴタゴタ添えてあるのも不要である。黒っぽいクロースの装釘は無難であるが、背文字の大きき、書体等は、誰の目にもあまり感心できるものではない。特にジャケット及び函のおおいは、むしろ醜態であり、梓版との余りの相違に驚愕を喫するほどである。元版の装釘は梓書房の数ある山岳書の中でも出色のもので、よくその内容とマッチしておりマンマリイの「My Climbs」の元版の装釘を思わせるものがあった。

第二の点については、実は全体を詳しく読む時間がなく、曾て私が熟読した折、気のついた誤りを朱記しておいたもので、その箇所だけについて検してみ。梓版二九四頁二行目、ウィンパールのAC副会長の任期が「一八二七年より一八七四年迄」となっているのは「一八七二年より」の誤植であることをACCの会員名簿で知ったが、復刻版ではどうなっているかと調べると、その二三四頁九行目に「一八六七年より一八七四年迄」と訂正されている。その前に委員であった年の最後が一八六七年なので、それを安易に使ったらしい。宜しく正確を期してほしい。次に梓版四七頁九行目(マンマリイの項)「高距四五七二米より六〇九六米の高距に達し一五二二米余……」の箇所は、明らかに一五二四米が正しいが復刻版三七六頁最終行では、元版の誤りがそのままとなっている。なお復刻版四六八頁フレッシュフィールドの項で最初の(849-184)の誤植である。これは復刻版だけの誤植である。この種の誤りは金巻を仔細に通読すれば、まだ少しは発見されるかも知れぬ。折角復刻すからには、完璧を期してほしいものである。

また本書は日本全書集の第一回配本だそうである。本書ばかりではない

が、このように××全集と冠する悪癖は吾国出版界だけの奇現象である。私は曾て他社の世界山岳名著全集やヒマラヤ名著全集企画のとき、全集という名の不適を繰返したが、遂にきき入れられなかった。古典十冊をらっしを一括し、これを全集と称する。読者を愚弄するも甚だしい。吾国には古くから××叢書の如き適当な用語があり、これを使用する見識ある出版業者も存する。何故に山岳名著叢書の如き名称が使えないのであろうか。復刻のような地味で且つ大切な仕事はそのくらしい見識をもった出版社にして、はじめて後世に伝えるに足る書物が出来得ると思うのである。

巻末につけられた解説中には成瀬雄氏の「偉大なる先蹤者大島亮吉さん」の一文五頁が収められ、また故人の著作および関係文献目録(二八頁)及び年譜(八頁)が添えられている。(類編五七五頁、索引二頁、定価二〇〇〇円、記念特価一五〇〇円昭和四三年六月一日日本文芸社発行)

(望月達夫)

受入図書紹介

(六月受入分)

1 ギャチュン・カン

長野県ヒマラヤ後援会 発行

B6変形版、一九二頁、非売品

一九六四年春の長野岳連隊の記録写真集。写真にまじえて、簡単な紀行文、登頂記、写真、隊員紹介などあり。

2 岩登りとグレート

第2次RCC編

あかね書房刊

小B6版、二二二頁、写真四〇葉、クライマーにおける賭けの要素、他の論説五編と、登攀技術教程、岩登り

3 カラー、空からみた北アルプス

写真 山田圭一

山と溪谷社 刊

小B6版、一九八頁、四八〇円

航空写真を中心にした写真集。写真の他に説明用見取図、六人の執筆による印象記、地図(二万分の二)二葉あり。

- 上達のポイント、クライマーの適性と心理等の記事あり。グレートについては、岩登りのグレート体系(二宮洋太郎)二二頁、ヨーロッパアルプスにおけるグレートについて(湯浅道男)一八頁、の二編あり。他に、三ツ峠と御在所岳の岩場案内が附いている。
- (あかね書房寄贈)
- 4 北壁の青春
- 高田光政著
- あかね書房刊
- 四六判箱入、二九九頁、写真二〇頁、十六年間の著者の登山記録。山に賭けた青春、アイガー北壁、マッターホルン北壁、グランド・ジョラス北壁の四部から成る。
- (山田圭一氏寄贈)
- 5 思い出の山
- (エーデルワイス・シリーズ)
- 川崎 隆章編
- 角川書店 刊
- 二二〇頁、写真二五葉、青春の山旅、山とこころ、みなかみを求めて、静寂の山なごころ、わたしの山と題してそれぞれ三、四編の随筆が集められている。
- (角川書店寄贈)
- 6 モルゲンロート九号
- 上智大学山岳会編
- A4版、一六四頁、孔版印刷、写真四頁
- 三九一年一四一年度の報告、故鏗康夫君の追悼集。
- 7 年報

中央大学学友会連盟山岳部編

A4版、一五二頁、写真三葉

コー・イ・バンダコル遠征報告三十九四十二年年度年報。

8 足引第四号

国学院大学体育会山岳部

OB山岳会編

B6版、三四一頁、孔版印刷、写真三十頁、

随想、紀行文、等の他、三十八四十二年度年報。

9 部報

6及び7

鹿兒島大学学友会山岳部編

A4版、六七頁(6号)、七〇頁(7号)

孔版印刷

尾久島特集(六号)及びキナバル遠征報告、城島忠雄君追悼集(七号)

10 THE FLORA OF EASTERN HIMALAYA

UNIVERSITY OF TOKYO,

1966

七四四頁、英文、写真四一頁、一九六〇年及び一九六三年の東大植物調査団の英文報告書。主に、採集植物の目録。

11 THE MOUNTAIN WORLD.

1966/67

SWISS FOUNDATION FOR

ALPINE RESEARCH

A4版、二二八頁、写真五六葉、地図十二枚、英文

(ヘルマン・ガイガー追悼(ボンペン)、アイガー直登について(ハストン)、コー・イ・ウバリシナ(ケルニック)、ダルバン・ソム他の初登シムムック、カン・テンリ(オニシチエノコ)、ガングラナ(ウンシニ)、ブータン(オスチャク、ターナー)グリーンランド一八七〇一九六六(ホッフ、ヒマラヤ登山譜一九六五(ボリンダー)南極での登攀(ヘルリコフパー)等の記事、二六編。

報 告

第6回海外登山技術研究会報告

日本山岳協会主催の海外登山技術研究会も、ようやく形をなしてきた。

▽期日 昭和43年4月28日(5月1日)
▽場所 富山県、文部省研修所
▽出席 加藤泰安氏以下一〇八名。うち本会会員は六八名。

研究会報告

4月28日(日)

開会式

研究会の主旨、スケジニール紹介
自己紹介

特別講演

(1) ヒンズブルクシの諸問題

……吉沢一郎氏

(2) ワン谷の地図について

……田中栄蔵氏

(3) ヒンズブルグについて

……深田久称氏

○一九六七年度ヒンズブルグシ隊報告
ヤジニ(広島大学、パンダコー
ル(中央大学)、ティリチミール(千
葉岳連)、サラグラール(一ツ橋大
学、ブニゾン(東京農大)、スワー
ト(京都教育大)、フアラクサール
(山口大学)、ヤルクーン(RCC
II)、サラグラール(新潟大学)

○一九六八年度ヒンズブルグシ遠征計画
発表

スリスタン・大垣山岳協会、コイ
・パンダコール・愛知学院大、シャ
ク・イ・カーブッド・立正大学、イ
ストロオナル・札幌医大、ロッシ
ニ・ゴ早大岳友会、ブニゾン・法
政大学、ヤルクーン・法大探検部、
ルンコー・東海大学、ルンコー・R
C II

……以上九隊

○ヒンズブルグシの問題点に関する研究
討議 ……座長 吉沢一郎氏

○一九六七年度遠征隊報告

(1) アラスカ(四隊)
①東京大学Ⅱ(ヘス)

②東京大学Ⅱブラックバーン

③兵庫大学Ⅱマウント・コーベ

④静岡大Ⅱコロンビア・アングス

⑤緑山岳会Ⅱアコンカグア南壁

4月29日(月)

特別講演 地図の作り方……

国土地理院 野口村邦夫氏

○パネル討議(A) 8・45~10・45
(1) 高処における氷雪技術(座長原真)
(2) 地図作成と測量方法(座長 深田
久称)

(3) 遠征アラカルト(座長、丹部節雄)
○パネル討議(B)

(1) アラスカ、カナダ(座長 芳野起
夫氏)

(2) アンデス、パタゴニア(座長 吉
沢一郎)

(3) 遠征資料の情報交換と資料センタ
ーの問題(座長 松田雄一)

○各パネルの総括討議

○ランタン谷の解明(司会松田雄一)

○ネパール問題について()

○海外登山における遭難とその対策
(司会 大塚博美)

四月三十日(火)

本日は測量・測図の実習班とスキー
ツアーの班に分れて行動する。

夜は、高田光政氏の「アルプスの三
つの壁」と題する講演、東大アラスカ
隊の映画、奥山晃氏撮影のマッターホ
ルン北壁 シャモニー針峰群の映画上
映の後、懇親会を行う。

五月一日(水)

○一九六八年度計画発表……アラスカ
・カナダ五隊、アンデス三隊他

○海外登山の今後の問題点(深田久称
氏)

○閉会式、十時開散。(Y・M)

……以上九隊



この度社団法人日本山岳協会より、
東京都岳連を通じて、昭和44年4月から

昭和44年度スポーツ外貨
割当て申請について

以上六十八名

起夫

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

以上六十八名

〔付記〕

昭和45年3月の期間に、実施する予定
の海外登山計画で、スポーツ外貨の割
当てを受けることを希望する団体は、
九月末日迄に(締切期日厳守)、東京
都岳連を通じて日山協事務局に関係書
類を提出された旨の連絡がありました
のでお知らせ致します。本会関係で
申請を希望される方は九月二十五日迄
に本会事務局迄左記関係書類を御提出
下さる様お願い致します。(大塚)

1 スポーツ外貨割当て申請書
日本山岳協会々長宛に責任者名にて
必要とする外貨の金額(ドル)を明
記して申請する。

2 計画書22部
〔記載内容〕

隊の名称(英文も併記)・隊長及
び隊員の氏名、年令住所、登山の
目的及び対象とする地域、山名、隊
のスケジニール・登山隊経費の明細
・収入予定・必要外貨額・事務局の
住所、TEL、担当者名。

なお、外貨の明細は整理上次の様
に区分して下さい。

(1) 外貨裏付円払旅費

(2) 滞在費

(3) 雑費

①荷物輸送量(含む関税)

②現地旅費・交通費

③通信費(含む、ポスト・ランナ
ー費)

④シェルバ・ガイド・通訳・リエ
ゾン・オフサイザー等

⑤ポーター賃、ロバ賃等

⑥入山料・ロイヤリティー等

⑦キャンプ費(燃料費等)

⑧現地食糧購入費

⑨予備費

(注) (1) 外貨裏付円払旅費
(2) (3) 外貨購入費(申
請書に記載する金額)

1 ネパール国への申請については九
月末日現在において、登山が正式に
開禁にならない場合は、審議の対象
外と致します。カラムその他の
地域についても入国の見通しのない
ものは、審議の対象外と致しますの
で、その点充分御留意下さい。

2 一九六七年度に割当てられたスポ
ーツ外貨は三隊一八、九九五ドルで
した。

3 御質問は松田(加一六一六)ま
たは辰沼(加一七八五〇)に願いま
す。以上

第二三四回小集

6月7日午後6時より、本会ルーム
において来日中の中華民国台湾省体育
会・山岳協会訪日友好登山団の一行を
招き、訪台経験のある会員多数の出席
を得て、歓迎の交歓会を開いた。国長
蔡景璋氏と三田会長との間で、ベナン
トと会員バッヂの交換が行われ、次い
で団員と会員の紹介があり、楽しい飲
談のひとときを過ぎた。

〔出席者〕 蔡景璋・林樹封・詹阿興・
陳承基・張色花・唐亭雲・潘澤淳・高
金塗・陳維新・黃銀欽・何東輝・陳愛
・劉李幼(以上ゲスト)、三田幸夫・
平沢亀一郎、加藤泰安・山崎安治・石
原憲治・尹官炳・小方全弘・吉沢一郎
・錦織保清・百瀬舜太郎・滝島清・武
田満子・浜野鉦市・西九震哉・松永康
子・河村栄二・辰沼吉吉・山口節子・
富田美知子・小味秀純・那古屋達男・
諸岡一・折井健一・野上成男・遠藤
登・芳野起夫・芳野菊子・新島義昭・
新藤波男・羽田英治・斎藤かつら・落
合一布・村井米子・関口周也・勝田房
治・田中義和・坂梨信介・高橋照・西
田守・横山文二・中村武久・堀越又男
・松田雄一(以上56名)

(上段写真・羽田英治氏撮影)



通 常 会 員 総 会

一九六八年（昭和四十三年）

昭和四十三年四月二十日（土）本会々議室において開催

議 事

開会に先立ち定員を確認。松方会長が議長に選任され挨拶の後、議事に移った。

〔挨拶の要旨〕

群馬県は谷川岳避難防止条例、富山県は登山届出条例を施行。双方に条例違反者が出て、遭難事故となつてゐる。

〔文部省国立登山研修所の開設〕

七月一日、立山千寿ヶ原に開設された。本会はこれに協力し、大学リダー、高校教諭の研修会に講師を派遣した。

〔自然保護の問題〕

（イ）西穂ヶ岳の問題が再燃しているが、本会は昭和三十八年以来、これに反対を表明し、現在も変らない。
（ロ）知床問題などに掲載されて、全国の岳連で自然保護についての問題がとりあげられるようになった。
（ハ）日本山岳協会の法人化
横有恒氏を会長として近く社団法人の認可が下りる見込み。

〔クラブタイの作成〕

（イ）「常さん」の碑が10月末、上高地にできた。

（ロ）維持会費制度を設け、年五〇〇〇

円位、有必の方に協力してもらい、2、3年ぐらゐ、会費値上げまでの間の財政補助の一部とするが、一五〇人ぐらゐにはお願いしたいと思つてゐる。

（ロ）募金

募金終了後も引きつづいて基金を開設し恒久的なものとしていく。

（ハ）エレレストの問題

ネ政府のヒマラヤ登山禁止解除も間近いと思はれるので、正式な通達が来たらスタートしたい。

その他

①会員の移動状況。43・3・31現在二五七一名で昨年より一三一名増。

②物故会員。和田豊桂、石黒清蔵、神山勉、斎藤捨治、中村清太郎、伏見鎌次郎、小里頼忠の各氏。会員ではないが、毎日新聞社の元ヒマラヤ事務局長でマナスル登山に尽力された古市美津雄氏も物故された。

報告事項

（一）一九六七年度事業報告（大塚）

（二）支部報告

秋田支部 荒牧広政
宮城支部 伊達篤郎
越後支部 藤島玄
信濃支部 塚本茂樹
山梨支部 山村正光
静岡支部 山本朋三郎
東海支部 原真
富山支部 中田勇吉
石川支部 小林雄二郎
関西支部 水野祥太郎
東九州支部 野口秋人

（三）一九六七年度收支決算報告（飯野）

四財産目録の報告（飯野）

四監事による監査報告（牧野）

各担当から資料にもとづき、それぞれ報告があり承認を受けた。また監事からは正確なことを承認すると報告があった。

議案

（一）一九六八年度役員選任の件
（二）会長・副会長選任の件
（三）評議員六名改選の件
以上三件は選挙の結果次の通り決定

会長 三田幸夫
副会長 吉沢一郎
理事 深田久弥
大塚博美
飯野 亨
竹田寛次
広谷光一郎
長尾博夫
大貫良夫
宮下秀樹
中島寛
丹部節雄
（以上再選）

山崎安治
藤井運平
川森佐智子
小倉童子
芳野越夫
小方全弘
浜野吉生
野上成男
（以上新任）

堀田弥一
松方三郎
渡辺公平
加藤泰安
小原勝郎
辰沼吉吉
村木潤次郎
（以上新任のみ）

（四）一九六八年度事業計画案
右二件は原案通り承認・可決された。

（出席）松方三郎・織内信彦・荒巻広政・宮沢章・三田幸夫・藤井運平・中田勇吉・大貫良夫・加藤泰安・木村勝久・岡村精一・片桐理一郎・深田久称・安川茂雄・平沢亀一郎・小倉童子・辰沼吉吉・星野和久・折井健一・中河

与一・大塚博美・河村憲二・国見利夫・片山全平・松田雄一・松本熊次郎・沼倉寛二郎・相沢裕文・飯野亨・伊達篤郎・三浦義明・金坂一郎・宮下秀樹・加納一郎・伊藤博夫・網倉志朗・横有恒・中保・吉武正子・三島蓉子・藤島敏男・城谷一誠・水野祥太郎・斎藤かつら・神谷恭・貝森健治・折井正子・篠崎長滋・水野公男・牧野衛・中屋健一・松尾良文・藤島玄・島田巽・森川洋佑・大瀧英子・山本朋三郎・原真・小方全弘・小原勝郎・吉沢一郎・伊藤洋平・石原憲治・伊倉剛三・神原忠夫・津田周二・福田良・野口末延・野上成男・小林雄次郎・名見耶達夫・宮崎英子・川上忠義・板倉勝正・須田紀子・朝井一男・塚本茂樹・川上隆・中西豊和・日下田実・山村正光・松永敏郎・中島寛・瀬名貞利・浜野吉生・山口秋人・関口周也・山崎金次郎・山崎安治・酒井敏明・坂本肇・今井友之助・今井嘉道・雁部貞夫・成瀬岩雄・高橋照・村井米子・小野利次・勝田房治・鈴木英一・石田要久・堀川英司郎・上田哲農・佐藤久一朗・山口節子・鈴木哲造・鈴木理己・松村寿（以上）

会長、藤井、山崎、丹部、大塚、飯野、広谷、竹田各常務理事

常務理事会
日時 五月三十一日、午後六・三〇
場所 本会集会场
出席者 三田会長、吉沢、深田両副会長、藤井、山崎、大塚、丹部、竹田各常務理事

議事
（一）ルーム移転の件検討
（二）都岳連評議員交替の件、広谷常務理事を推薦。
（三）日本山岳協会法人設立の保証人依頼の件検討
（四）デメゾン氏来日歓迎会の件
（五）ウェストン祭・上高地山荘下見のため藤井、大塚両常務理事加藤評議員現地へ派遣。
（六）ウェストン祭に肴酒料として一万円寄付の件
（七）韓国山岳会来日延期の件、立替金は精算中
（八）会員、小倉志郎氏（一〇四番）退会届の報告。

六月定期理事・評議員会
日時 六月十三日、午後六・四五
場所 本会集会场
出席者 三田会長、吉沢、深田両副会長、（理事）山崎、大塚、広谷、竹田、長尾、大貫、宮下、川森、丹部、芳野、小倉、小方、浜野、野上、（評議員）島田（監事）牧野（以下委任）理事・藤井、評議員・松方、渡辺、加藤、辰沼、望月

議事
（一）ルーム移転の件 大塚
五月の理事会以降常務理事会で調査した配布資料①に従って詳細説明あり

（二）新役員交歓会開催の件
（三）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（四）ルーム引越しの件につき検討
（五）上高地山荘の新改築の件検討
（六）各専門委員会からの報告、出席者
（七）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（八）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（九）新旧役員交歓会開催の件
（十）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（十一）ルーム引越しの件につき検討
（十二）上高地山荘の新改築の件検討
（十三）各専門委員会からの報告、出席者
（十四）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（十五）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（十六）新旧役員交歓会開催の件
（十七）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（十八）ルーム引越しの件につき検討
（十九）上高地山荘の新改築の件検討
（二十）各専門委員会からの報告、出席者
（二十一）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（二十二）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（二十三）新旧役員交歓会開催の件
（二十四）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（二十五）ルーム引越しの件につき検討
（二十六）上高地山荘の新改築の件検討
（二十七）各専門委員会からの報告、出席者
（二十八）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（二十九）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（三十）新旧役員交歓会開催の件
（三十一）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（三十二）ルーム引越しの件につき検討
（三十三）上高地山荘の新改築の件検討
（三十四）各専門委員会からの報告、出席者
（三十五）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（三十六）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（三十七）新旧役員交歓会開催の件
（三十八）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（三十九）ルーム引越しの件につき検討
（四十）上高地山荘の新改築の件検討
（四十一）各専門委員会からの報告、出席者
（四十二）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（四十三）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（四十四）新旧役員交歓会開催の件
（四十五）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（四十六）ルーム引越しの件につき検討
（四十七）上高地山荘の新改築の件検討
（四十八）各専門委員会からの報告、出席者
（四十九）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（五十）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（五十一）新旧役員交歓会開催の件
（五十二）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（五十三）ルーム引越しの件につき検討
（五十四）上高地山荘の新改築の件検討
（五十五）各専門委員会からの報告、出席者
（五十六）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（五十七）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（五十八）新旧役員交歓会開催の件
（五十九）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

（六十）ルーム引越しの件につき検討
（六十一）上高地山荘の新改築の件検討
（六十二）各専門委員会からの報告、出席者
（六十三）U.I.A.Aからの総会案内、出席者
（六十四）故中村清太郎氏遺作展精算報告
売上、六一三、七〇〇円、剰余金八六〇、六二五円

（六十五）新旧役員交歓会開催の件
（六十六）春の叙勲者、四名報告
出席者 三田会長、吉沢、深田両副

4) 図 書

種 類	冊 (枚) 数	金 額
洋 書	759	1,518,000
和 書	1,743	1,394,400
地 図	230	65,640
計		2,978,040

5) 絵 画

18 点 他 450,000

【参 考】

未収金 広告料 35,000

3) 什器・備品

種 類	数 量	金 額
宛 名 カード ケース	1	14,348
刊 一 フ ネビ	1	5,022
セコ 名 印 刷 機	1	17,477
宛 文 タイ プ ライ タ	1	52,621
英 電 ス テー ス	1	13,388
ライド プロジェクタ	1	10,000
ステス プレコーダ	2	27,000
チー ル 雑 誌	1	35,616
椅子	1	15,000
機 ス テー ル 黒 板	2	32,828
・ テー ル	46	133,741
チー ル	15	182,332
両 開 キ ャ ビ ネット	1	16,051
ブライ リング	6	51,363
マッ ロ ッ ク カ	4	39,555
コン パ ッ ク カ	1	56,865
キ ャ ビ ネット	4	174,260
移 動 書 庫	1	9,630
式 引 違 路	1	4,999
チー ル	2	7,245
組 立 用 本 棚	1	4,036
ス 電 気 掃 除 機	1	22,287
計		937,129

資 産 総 額 15,311,863

1. 基本財産 100,000

1. 運用財産 15,211,863

内訳 1. 基本財産

種 類 預 入 先 金 額

貸付信託 日本信託銀行本店 100,000

1. 運用財産

1) 現金及預貯金

種 類	預 入 先	金 額
現金	東 京 銀 行 本 店	132,770
普通預金	協和銀行 神田支店	10,435
	第一銀行 神田支店	651,063
	八十二銀行 神田支店	72,663
	協和銀行 神田支店	202,418
定期預金	協和銀行 神田支店	1,000,000
通知預金	協和銀行 神田支店	2,000,000
振替預金	東京 振 替 貯 金 組	17,345
保 証 金	向 井	6,000,000
計		10,086,694

【参考】普通預金に終身会費100,000を含む

2) 建 物

用途	位 置	構造	坪数	取得年月日	記 帳 価 格
山 研究	長野県南 安曇郡 上高井村 13林小班	木造トタン葺平家建	22坪	昭和36年5月25日	760,000

財 産 目 録
昭和四十三年三月三十一日
(単位 円)

昭和43年度収支予算表(案)

(△印前年度増)

入			
科 目	予 算	前年度予算	増 減
經常収入	4,350,000	5,060,000	710,000
入会費	750,000	1,500,000	750,000
年会費			
終身会費	3,600,000	3,560,000	△ 40,000
事業収入	2,170,000	2,300,000	130,000
山岳部	620,000	850,000	230,000
山岳部	500,000	500,000	0
山岳部	800,000	700,000	△100,000
山岳部	250,000	250,000	0
山岳部	360,000	270,000	△ 90,000
山岳部	100,000	70,000	△ 30,000
山岳部	200,000	200,000	0
山岳部	60,000		△ 60,000
小 計	6,880,000	7,630,000	750,000
前年度繰越	4,086,694	3,660,392	1,660,392
合 計	10,966,694	11,290,392	2,410,392

出			
科 目	予 算	前年度予算	増 減
運営管理費	4,425,000	3,934,000	△ 491,000
手文具	1,150,000	950,000	△ 200,000
印刷費	180,000	90,000	△ 90,000
文通費	210,000	180,000	△ 30,000
通信費	250,000	180,000	△ 70,000
通信用料	700,000	970,000	270,000
家賃	1,073,000	996,000	△ 77,000
保管費	20,000	7,000	△ 13,000
諸光電	30,000	32,000	2,000
電報料	12,000	10,000	△ 2,000
電話料	170,000	45,000	△ 125,000
会議費	90,000	80,000	△ 10,000
雑費	50,000	50,000	0
印刷費	80,000	50,000	△ 30,000
材料費	50,000	50,000	0
燃料費	200,000	74,000	△ 126,000
雑費	60,000	60,000	0
運賃	100,000	110,000	10,000
事業費	3,150,000	3,580,000	430,000
出版費	800,000	1,000,000	200,000
出版費	1,500,000	1,800,000	300,000
出版費	100,000	80,000	△ 20,000
出版費	100,000	100,000	0
出版費	100,000	100,000	0
出版費	300,000	250,000	△ 50,000
出版費	250,000	250,000	0
小 計	7,575,000	7,514,000	△ 61,000
予備費	50,000	3,776,392	3,726,392
繰越	3,341,694		△ 1,255,000
合 計	10,966,694	11,290,392	2,410,392

昭和42年度収支決算表

自 昭和42年4月1日
至 昭和43年3月31日

(単位 円)

入			
科 目	予 算	決 算	予算に対する 決算増減(△)
經常収入	5,060,000	4,191,900	△ 868,100
入会費	1,500,000	930,000	△ 570,000
年会費	3,560,000	3,241,900	△ 318,100
終身会費		20,000	20,000
事業収入	2,300,000	2,582,030	282,030
山岳部	850,000	968,150	118,150
山岳部		(742,000)	0
山岳部	500,000	500,000	0
山岳部	700,000	892,880	192,880
山岳部		(829,730)	0
山岳部	250,000	221,060	△ 29,000
山岳部	270,000	362,545	92,545
山岳部	70,000	69,533	△ 467
山岳部	200,000	293,012	93,012
山岳部		87,546	87,546
山岳部		557,075	557,075
山岳部		2,200,000	2,200,000
山岳部		739,500	739,500
山岳部		7,220,856	7,220,856
山岳部		17,941,452	10,311,452
小 計	7,630,000	3,660,392	0
前年度繰越	3,660,392		
合 計	11,290,392	21,601,844	10,311,452

出			
科 目	予 算	決 算	予算に対する 決算増減(△)
交通費	180,000	173,015	△ 6,985
通信費	970,000	992,179	22,179
通信用料	996,000	1,058,830	62,830
家賃	7,000	6,500	△ 500
保管費	32,000	49,950	17,950
諸光電	10,000	10,520	520
電報料	45,000	115,053	70,053
電話料	80,000	72,829	△ 7,171
会議費	50,000	53,660	3,660
雑費	50,000	86,215	36,215
印刷費	50,000	95,430	45,430
材料費	74,000	130,108	56,108
燃料費	50,000	76,650	26,650
雑費	60,000	54,000	△ 6,000
運賃	110,000	54,000	△ 56,000
事業費	3,580,000	3,999,596	419,596
出版費	1,000,000	1,042,975	42,975
出版費	1,800,000	2,417,920	617,920
出版費	80,000	173,291	93,291
出版費	100,000	49,600	△ 50,400
出版費	100,000	29,700	△ 70,300
出版費	250,000	1,500	△ 248,500
出版費	250,000	252,616	2,616
出版費		31,994	31,994
出版費		100,000	100,000
出版費		803,640	803,640
出版費		8,185,691	8,185,691
出版費		17,515,150	10,001,150
小 計	7,514,000	17,515,150	10,001,150
予備費	3,776,392		△ 3,776,392
繰越		4,086,694	4,086,694
合 計	11,290,392	21,601,844	10,311,452

〔青葉台マンション〕、G八階(三六・一坪室専用二八・四、バルコニー七・七坪)図書、談話、集會室、事務室、便所、現状から見れば床面積が十坪程狭くなる勘定になるが、まあまあ広さである。ロケーション八階の西、南向きで、高台のため富士山も見え文句はない。交通の便——バス渋谷南口から十八系統あり、二つ目の大坂上下車、筋向い。玉電渋谷から一つ目、上通り下車五分。徒歩・渋谷から一軒五分、環状六号線内。地理的条件は、現状向井ビルと比較すると不便になる。概要以上であるが常務理事会で検討した結果は時期早尚と消極的賛成で意見はまとまっておらず、理事・評議員会の意見、又長老や支部長の意向も十分に参考にしたと説明があり、移転を不利とする尚早論と有利とする賛成論の要旨をまとめたメモに従って討議に移った。

〔尚早論〕

・引越して間もない。会員利用も増えている現状から移転する何等理由が見当らない。
・家賃がかかるというが、原宿のコイボから移る当初から分っていることで、引越して一年もたたぬうちに、無定見である。
・向井ビルに引越した時、募金をした趣旨からすれば、会員をベテニにかけたことと見られても仕方ない、又会員外の募金者には大変まづいことになる。
・原宿のコイボも不便であった。渋谷の大橋は向井ビルに比べると、更に不便になるし、在京会員は勿論、地方会員には極めて不便、又最も仕事の多い、理事、各委員諸氏の不便さを考えると地理的条件は落第といいたい。
・最も問題なもの一つに、室が実質的に三九坪から十坪くらい狭くなるというところで、現状より広くなるというならいざ知らず、先々を考えて、狭い

処へということとは考えられない。

・更に重大な点は、会の財政上の面から見て、やがては自分のものになるとはいっても一三〇〇万円の値段は六、七百万円の多額の借金の借段は六、七百万円の多額の借金を(年六分)を借りれば、利子に追われ一層苦しくなるであろうし、買取りとしては、実力以上と思われる。会の現状からは買取りは八、九百万円とまり、即ち借金は二百万円とまりというのが経理面からの見通しである。

・あらゆる点から見て、現ルームを移転する有利な理由が何一つ現状ではない。しばらくこのまま置いてよい買物があつたら、考えるべきで現在はいむし、五階から六階に移転して欲しいという点をもっとはっきりさせて、その契約にもとづいて事を進むべきで、徒らに青葉台マンションの話を幻惑されるべきでない。

〔有利とする論〕

・自分のものになるという点が最大の魅力である。条件を綜合すると絶好の買物と思われ。
・理事会の無定見、会員又は外から募金した点について批判もあると思うが、時限のズレから見ると、事前によく移転の趣旨を説明すれば分って貰えるであろう。
・又臨時総会を開き、会員にはかり承認をとることも必要であろう。
・渋谷という場所は、将来は副都心。都心部の拡大を考えると、今の不便さは問題にならない。
・室の広さも、買取り価格の現状からして、この広さが限度。床面積二八・四坪ということは、現ルームから見ると集會室の前室と三角の窓の部分だけ狭くなり、図書室が少し充実される。ほとんどいいところである。
・資金ぐりについて有利と考えられるのは向井組と、青葉台マンションの目

黒タミナルビルが同系資本のためと、現契約(五カ年)から店子有利の点からで、売値から百万、現内装を百万で買取る。即ち二百万近い値引きをしてくれる。儉約すれば、五、六百万の借金になり、利子の高いローンをなるべく避け、会員から有価証券などを借用して低利の金融を受ければ利子は半分で済むであろう。そうすれば、現在の室代約八万を月賦返済に当て、年約五十万の利子を月割りに経費で落して行けば六年后には借金も返済出来る訳である。

・五年・十年後を考えれば、値上りこそすれ、値下りする傾向は考えられないので、よい条件なら買取るべきである。又会の状況から見ても、会を作りあげ盛りあげて来た、いわゆるオリジナルメンバーが健在なうちに、会のルームを自前のものとした方がよい。先に行くにしたがって、資金のやりくりは苦しくなるであろう。

概要は以上の通りであったが、時期尚早とするのは欠席の藤井常務理事、渡辺、望月、辰沼の各評議員であり、絶対賛成とするのは欠席の加藤評議員であり、出席の理事、評議員、監事の大方の意見としては、現状の説明では移転を有利とする方向であった。ただし、かんじんの経理担当が欠席なので、責任ある財政面の報告が出来ないから更にこの点をよく確かめた上、更に買取りの契約条件、会社の内容などを調査した上で、各評議員、支部長、長老などの意見はあった上で進めて行くようにした。

(2)都邑連評議員交替の件

村本評議員の代りに、広谷常務理事を選任し、承認した。

(3)報告事項

(1)第二十二回ウェストン祭・上高登山荘。盛会であった。徳本峠越えの記念山

行も五十名を超える大パーティーで、雨にもあわず無事に終了。
・碑前祭は田中薫、尾崎喜八両氏の記念講演を中心に、約一五〇名の参加者を見て盛況であった。
・年を追って、盛大になっていく模様なので、今後の方策を考える必要があると思われる。

主な顔ぶれとして、石田吟松、佐野勇一、津田周二、渡辺八郎、兵力夫妻、加藤泰安、石原憲治、沼倉寛二、藤井連平の諸氏、坂倉さ初めエーデルワイスの諸嬢、高山忠四朗氏他地元、塚本支部長らの舞台裏の面々。山荘・改新築と借地の下見報告があった。

(4)中村清太郎遺作展精算報告

売上げ、九三七、二〇〇円
油絵三九点、他一八八、
支出 八一、〇六三円
展示関係、通信費他
剰余金 八五六、一三七円
剰余金のうち四十万は中村家へ、残りは会へ寄贈ということで中村家と了解が出来ている。近々、吉沢副会長、安川茂雄両氏で中村家を訪問の予定。

(5)韓国山岳会来日無期延期の件
国情の変化で来日の見込みがたらず、立替金一七六、五二〇円は現在精算中
(6)日本山岳協会は五月二十五日社団法人の認可を受け、翌二十六日、総会、理事会も無事に終了した。会長として横有恒氏、副会長松方三郎氏は留任、特別会員の会長指名理事として辰沼、松田両氏は留任、加藤評議員は再任された。

(7)日本山岳協会、法人設立に必要な保証人として、本会に依頼あり。これをはかったところ、一同異議なく承認。

(8)学習院大、ヒンズークシ登山隊への推薦状交付依頼の件は承認された。

(9)山形地方検察庁から、山岳遭難(山崎山岳部・大朝日縦走、四二・四・四五生徒三名死亡)刑事事件の参考人として意見を聞きたいとの申し出があり、日山協からは辰沼理事が山形に行った。本会には藤井、大塚両理事に指名があり、来週中に検事上京の際、日山協加藤評議員を含めて三名が会う予定。
(10)小倉志郎(一〇四番)退会承認

(4)各専門委員会報告

(1)海外連絡委員会、丹部、
○来夏、来日するシエラクラブの下調査のためキンボール氏来日、北海道から九州まで歩くので、各支部に連絡したい。

○デメソン氏歓迎会。ジャヌーの登頂者のデメソン氏がフランス山岳会の会長メッセージと16m/mフィルムを持参して挨拶に来るので、六月一日、小集会として交歓を行いたい。映画は保税倉庫で映写する。
○日印婦人合同隊、隊長から本会々長に礼状ある。七月二十一日帰国予定。

(2)集會委員会、芳野
○台湾山岳協会歓迎会(小集會)団長蔡景璋氏他十三名、三田会長他約四十名、盛大に交歓を行う。剰余金二五三〇円は次回に繰越す。
○年間スケジュールが発表された。七月、チエマフノール・タトラの夕べ、八月、休み、九月、日印女性登山隊報告、十月、鳥居氏・南極越冬の話、十一月、支部との交歓静岡の「モミジ会」十二月、休み、一月、西九氏のニエギニアの話、二月、宮城県フィルム、三月、未定、付、年次晩餐会、十二月六日(常務理事会理事)

○南極のフックス氏来日中であるが、スケジニール合わず、招待出来ず。

(3)学生部 宮下
○大学山岳連盟の結成を準備中、各

ルネ・デメゾン氏歓迎会

6月14日6時から本会ルームにおいて、この度フランス貿易使節団の一員として来日中のルネ・デメゾン氏（ジャヌー初登頂者として高名なクライマー）の歓迎会を催した。

この日は、デメゾン氏の他、同行のグルノーブル・オリンピックのスキー女子滑降で二位となったファモズ嬢など多数のフランス大使館・貿易センター関係者が来室され楽しいひとときを過ごした。税関手続の都合で7時半頃から会場をフランス貿易センターに移動し、デメゾン氏持参のシャモニーにおける彼の登攀の映画を観賞し9時頃散会した。

〔出席者〕 ルネ・デメゾン、アン・ファモズ、ジャン・ピエール、オジュニル、ボンシャール夫妻、ロビン夫妻、他3名（以上ゲスト）、今井嘉道、折井健一、B・ビュウラー、齋藤かつら、広谷光一郎、山崎安治、藤島敏男、松本熊次郎、三田幸夫、川森左智子、尹官炳、F・マライニ、大塚博美、関口周也、吉沢一郎、伊藤頼司、丹部節雄、牧野衛、黛治也、芳野超夫、芳野菊子、松永敏郎、小島甫、堀川英司郎、細川雅弘、後藤幹次、鷺見竹由、那古屋達雄、川上隆、山口節子、武田満子（以上41名）

ルーム基金入金報告

事務局

六月一日～六月三〇日間の、ルーム基金入金者は左記の通りです。

申込件数 一〇件
申込口数 二〇・四口
総申込件数 一三五四件
総申込口数 七四三九件

ルーム日誌（43・6）

3日（月） 山岳編集委員会
4日（火） 支部連絡委員会
5日（水） 図書委員会
6日（木） 新旧役員交歓会（逢妻閣）
7日（金） 台湾訪日登山隊交歓会
13日（木） 定例理事評議員会
14日（金） フランス山岳会ルネ・デメゾン氏歓迎会
15日（土） 有志懇談会（六義園）
17日（月） 日本自然保護協会勉強会
西丸震哉氏・ニューギニア人喰人種調査社行会
19日（水） 図書委員会
20日（木） 学生部委員会
21日（金） 稲門山岳会総会
24日（月） もみの家会員総会
25日（火） 学生部6月例会
27日（木） 常務理事会
六月中来室者四七〇名（以上）

バイネ山群の初登頂

有名なイアン・クロー（Ian Clough）を隊長とする七人の英国隊が、バイネ山群の“The Fortress”（c.1660m）に初登頂した。日時その他不詳。

チンボラソの最高点登頂他

去る一月の一日、アメリカのビン・ホーン夫妻（Win and Grace Hoeman）が、チンボラソの最高点であるポイント・ウィンバ（Point Whympet, 6268m）の頂上に立った。

彼らはこの登攀を四七八五mの所にある避難小屋から14時間で行なった。尚、一月一四日に、イリニサ北峰（Ilinza Norte, 5100m）にも登っている。因みにイリニサ南峰（五二六六m）は、ウィンバ隊によって登られている。それにしても、夫妻でアンデスの高峰に冬期登攀とは大したものだ。（AAC, News, No. 99, March, 1968）

氏名 会費番号 入金額 現住地

上野博基	五三二一	一	富山
大谷一良	四四七七	三	東京
岡田儀宣	五五五八	三	東京
坂井真	四〇四八	三	東京
大力博	六四四五	一	大分
都筑竜	五九三四	一	東京
徳永登喜雄	四九四八	三	神奈川
錦織保清	一九四一	二	神奈川
計		五	神奈川

本会関係その他

日本山岳会越後支部 追〇・四

計三二・七

